需給動向

国内の畜産物の需給動向

牛　肉

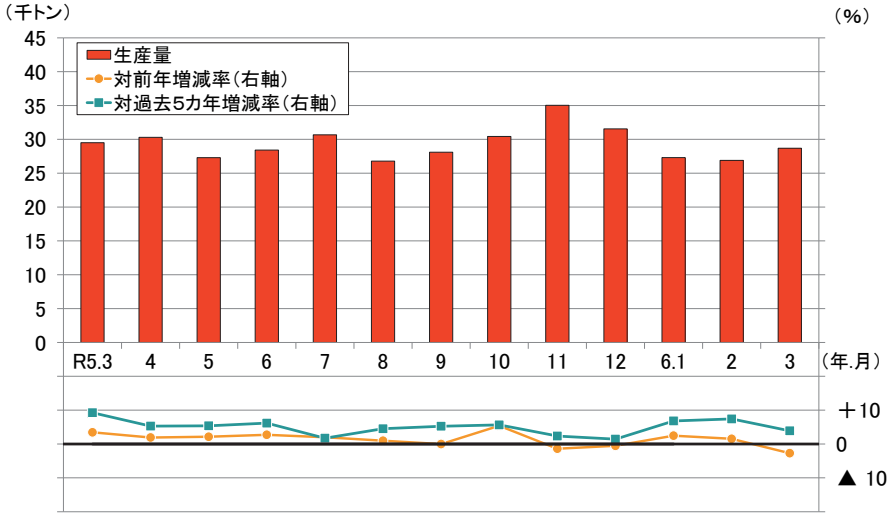
６年３月の牛肉生産量、前年同月比2.7%減

生産量

令和６年３月の牛肉生産量は、２万8696トン（前年同月比2.7%減）と前年同月をわずかに下回った（図１）。品種別では、和牛は１万3821トン（同2.4%増）とわずかに前年同月を上回った一方、交雑種は7726トン（同4.0%減）とやや、乳用種は6864トン（同7.8%減）とかなりの程度、いずれも前年同月を下回った。

なお、過去５カ年の３月の平均生産量との比較では、3.9%増とやや上回る結果となった。

図１　牛肉生産量の推移



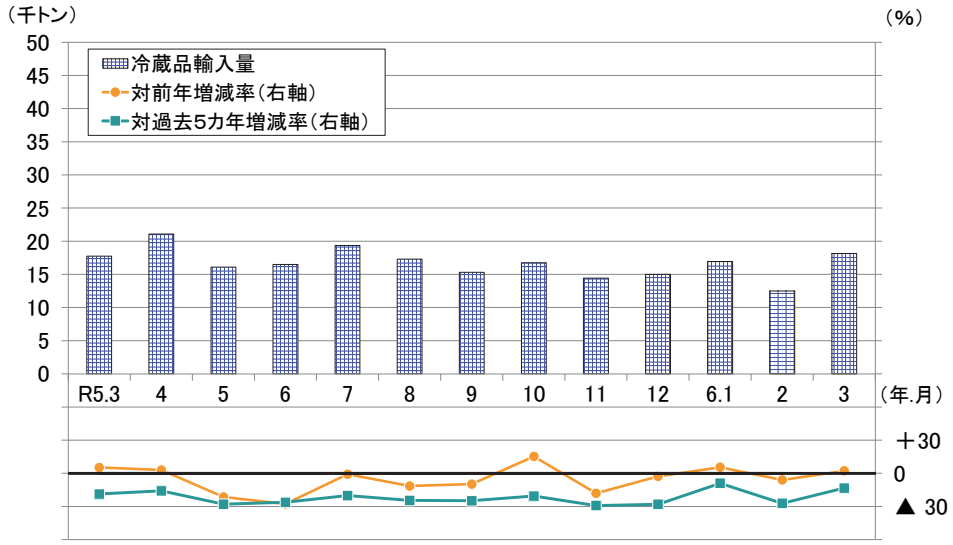
資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

３月の輸入量は、米国産が現地相場の高騰により減少した一方、豪州産が増加したことなどから、冷蔵品は１万8155トン（前年同月比2.2%増）とわずかに、冷凍品は２万186トン（同6.3%増）とかなりの程度、いずれも前年同月を上回った（図２、３）。この結果、全体でも３万8362トン（同4.3%増）と前年同月をやや上回った。

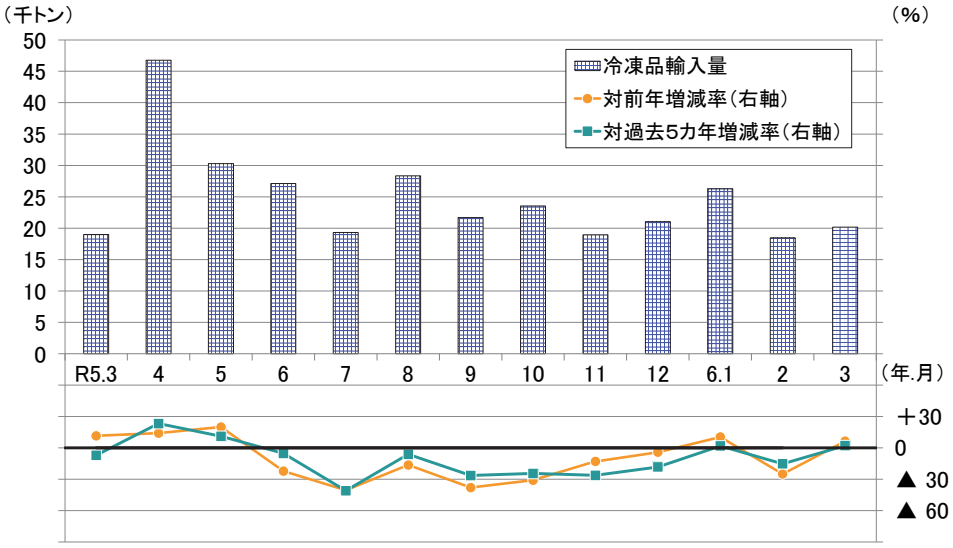
なお、過去５カ年の３月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は13.3%減とかなり大きく下回った一方、冷凍品は2.2%増とわずかに上回る結果となった。

図２　冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
　注：部分肉ベース。

図３　冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
　注：部分肉ベース。

家計消費量等

３月の牛肉の家計消費量（全国１人当たり）は162グラム（前年同月比0.6%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去５カ年の３月の平均消費量との比較では、12.5%減とかなり大きく下回る結果となった。

３月の外食産業全体の売上高は、前年より土日の数が２日多い曜日まわりと新型コロナウイルス感染症（COVID－19）の５類感染症移行後初めての歓送迎会シーズンとなったことで客足が堅調であったほか、円安傾向の継続や北陸新幹線の延伸開業などもあり、インバウンドを中心に観光需要が好調で、前年同月比11.2%増と前年同月をかなり大きく上回った（一般社団法人日本フードサービ

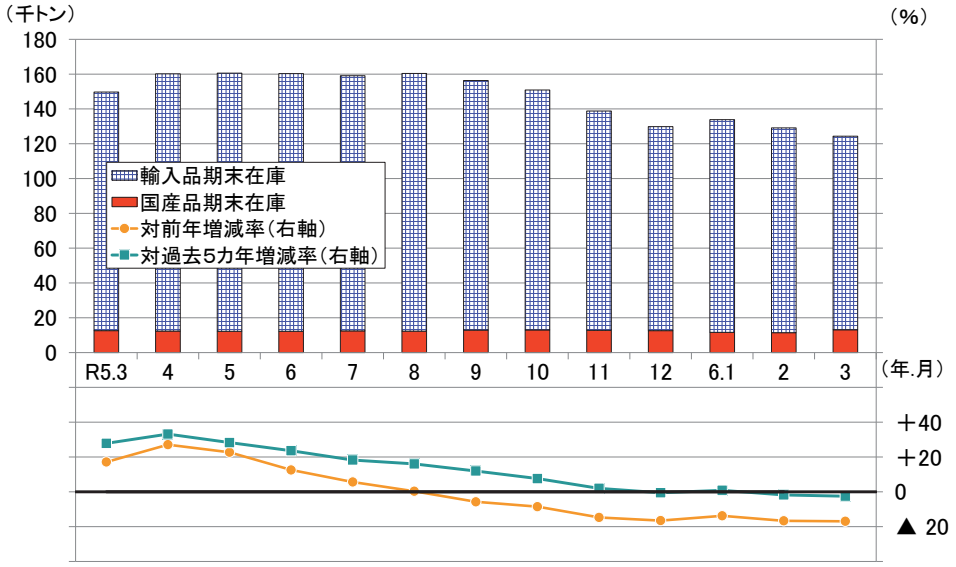
ス協会「外食産業市場動向調査」)。このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態では、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、割引率の高いキャンペーンと新商品の好調やリーズナブルな新ブランド商品の展開などで、同10.4%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風も、CM効果などにより、同16.1%増と前年同月を大幅に上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、団体客、食べ放題客および訪日外客など集客が好調で、同13.6%増と前年同月をかなり大きく上回った。

推定期末在庫・推定出回り量

３月の推定期末在庫は、12万4337トン（前年同月比17.0%減）と前年同月を大幅に下回った（図４）。このうち、輸入品は11万1229トン（同18.9%減）と前年同月を大幅に下回った。

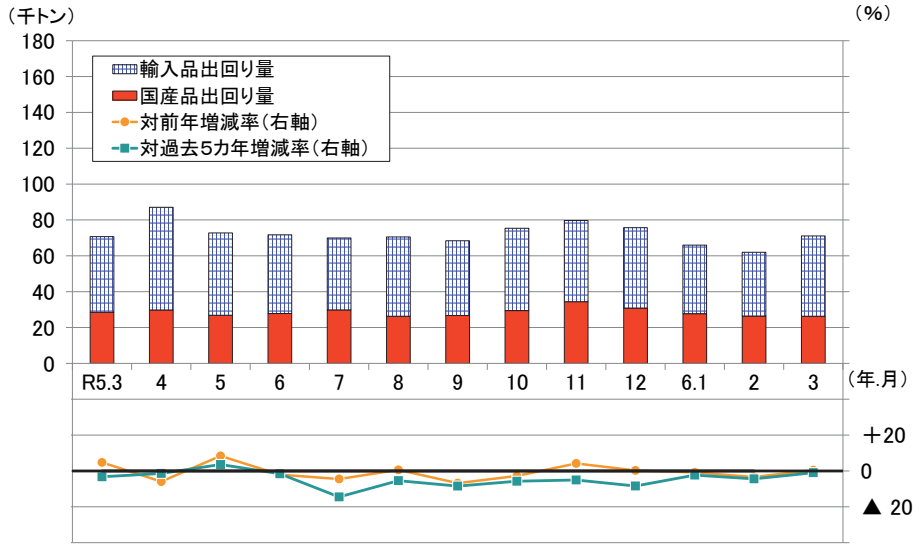
推定出回り量は、７万1058トン（同0.5%増）と前年同月をわずかに上回った（図５）。このうち、国産品は２万6259トン（同7.8%減）と前年同月をかなりの程度下回った一方、輸入品は４万4799トン（同6.1%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

図４　牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図５　牛肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

（畜産振興部　丸吉　裕子）

豚　肉

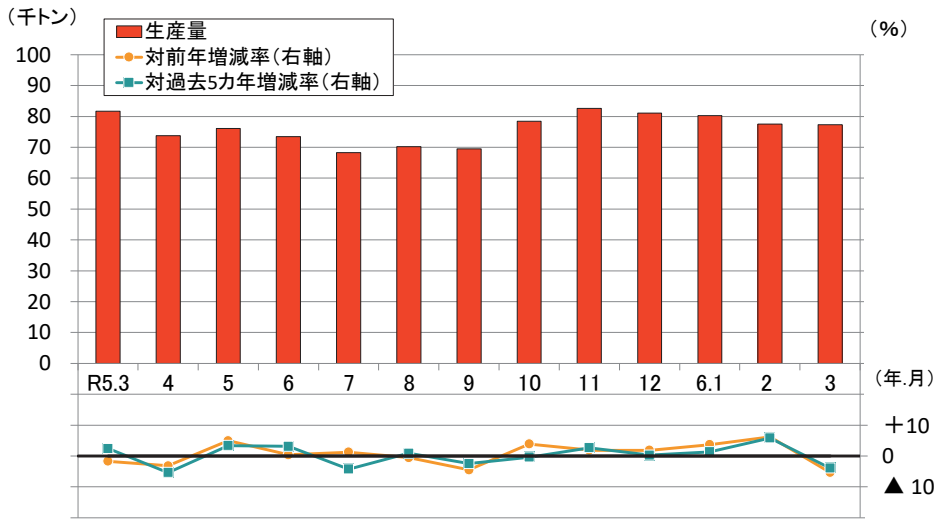
６年３月の豚肉生産量、前年同月比5.3%減

生産量

令和６年３月の豚肉生産量は、７万7333トン（前年同月比5.3%減）と前年同月をやや下回った（図１）。

なお、過去５カ年の３月の平均生産量との比較でも、3.9%減とやや下回る結果となった。

図１　豚肉生産量の推移



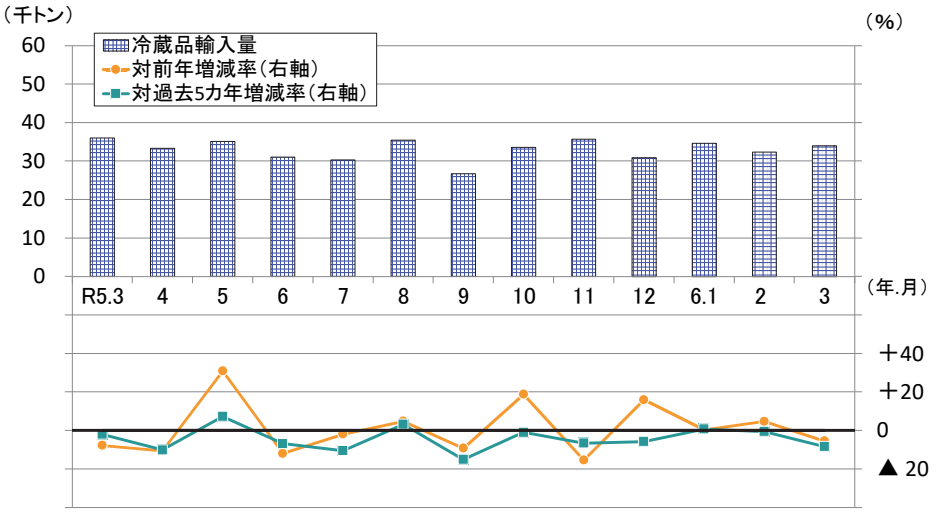
資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

輸入量

３月の輸入量は、冷蔵品は、為替の影響に加え、北米産の相場高などから、３万3999トン（前年同月比5.5％減）と前年同月をやや下回った（図２）。冷凍品は、入船の遅れていた欧州産がまとまって入ってきたことに加え、国内在庫がひっ迫している中で例年３月に行われる通関保留が少なかったことなどから、４万334トン（同22.1％増）と前年同月を大幅に上回った（図３）。この結果、全体では７万4351トン（同7.7％増）と前年同月をかなりの程度上回った。

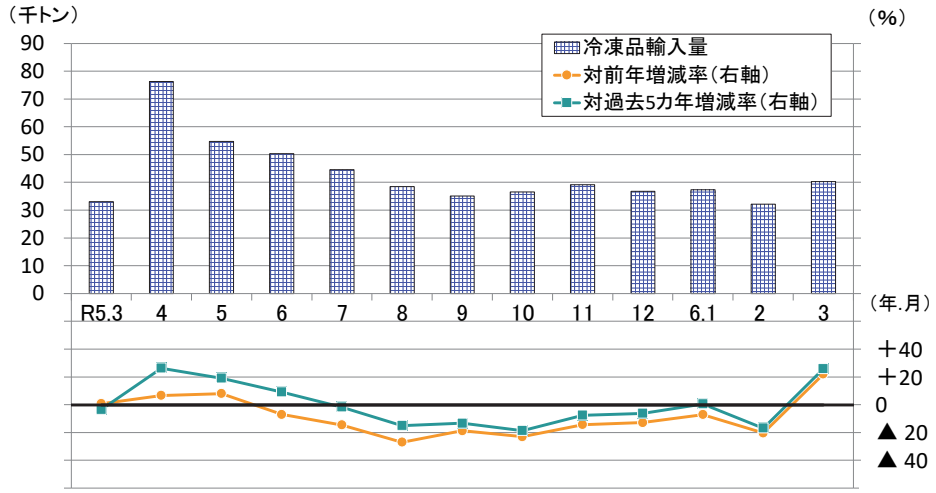
なお、過去５カ年の３月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は8.5％減とかなりの程度下回った一方、冷凍品は25.8％増と大幅に上回る結果となった。

図２　冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図３　冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

３月の豚肉の家計消費量（全国１人当たり）は、665グラム（前年同月比3.8％増）と前年同月をやや上回った（総務省「家計調査」）。

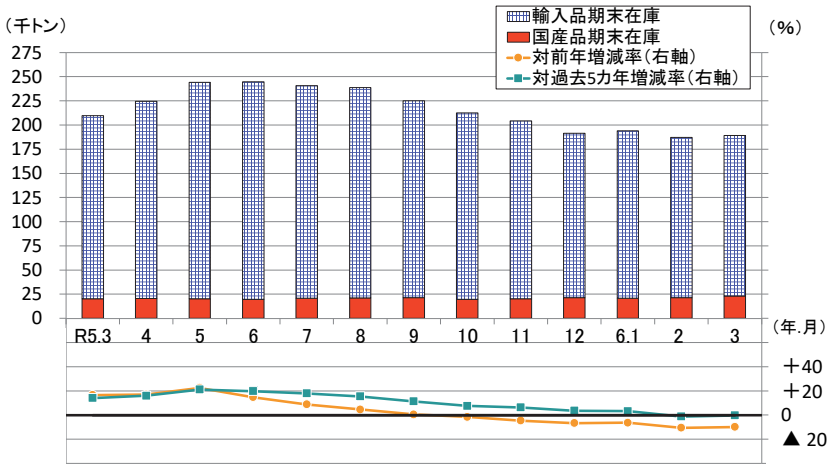
なお、過去５カ年の３月の平均消費量との比較でも、1.7％増とわずかに上回る結果となった。

推定期末在庫・推定出回り量

３月の推定期末在庫は、18万9236トン（前年同月比9.8％減）と前年同月をかなりの程度下回った（図４）。このうち、輸入品は、16万6119トン（同12.4％減）と前年同月をかなり大きく下回った。

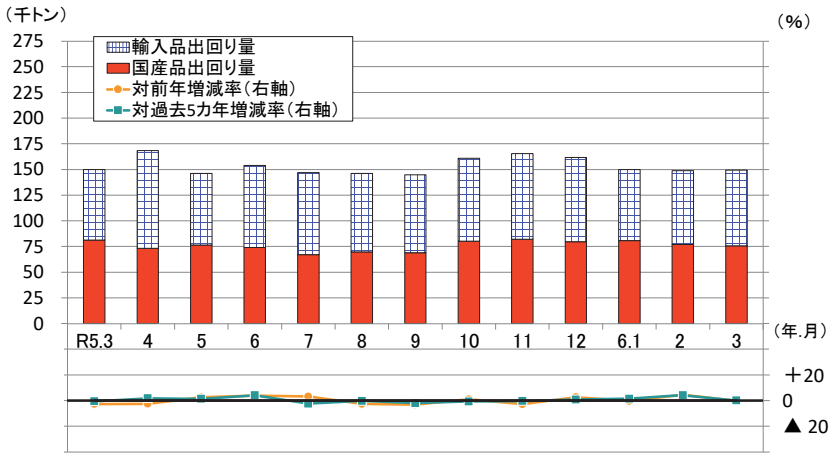
推定出回り量は、14万9436トン（同0.2％減）と前年同月並みとなった（図５）。このうち、国産品は７万5518トン（同7.0％減）と前年同月をかなりの程度下回った一方、輸入品は７万3918トン（同7.8％増）と前年同月をかなりの程度上回った。

図４　豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図５　豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

（畜産振興部　小森　香穂）

鶏　肉

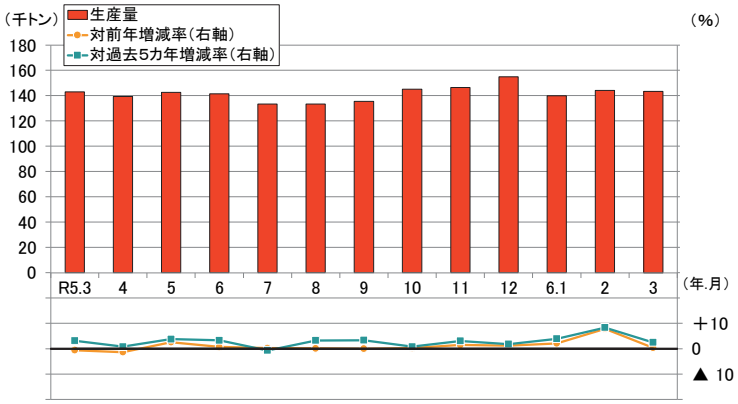
６年３月の鶏肉生産量、前年同月比0.4％増

生産量

令和６年３月の鶏肉生産量は、14万3459トン（前年同月比0.4％増）と前年同月をわずかに上回った（図１）。

なお、過去５カ年の３月の平均生産量との比較でも、2.5％増とわずかに上回る結果となった。

図１　鶏肉生産量の推移



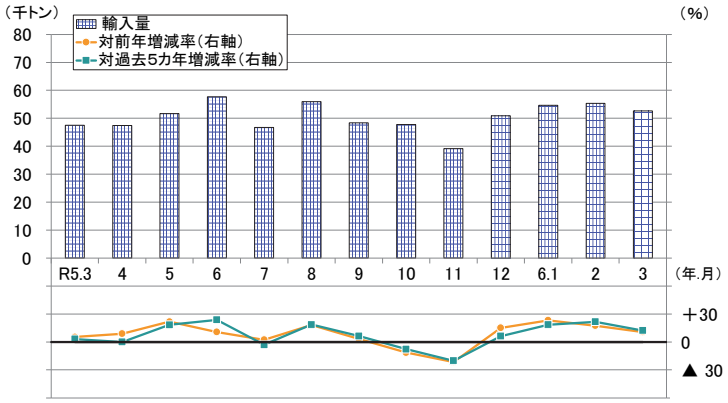
資料：農畜産業振興機構調べ
注１：骨付き肉ベース。
注２：成鶏肉を含む。

輸入量

３月の輸入量は、ブラジル産については同国において発生した高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響からの輸入回復などに加え、タイ産への引き合いも増えていることにより、輸入量が増加したことなどから、５万2670トン（前年同月比10.8％増）と前年同月をかなりの程度上回った（図２）。

なお、過去５カ年の３月の平均輸入量との比較でも、12.3％増とかなり大きく上回る結果となった。

図２　鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

３月の鶏肉の家計消費量（全国１人当たり）は、558グラム（前年同月比8.2％増）と前年同月をかなりの程度上回った（総務省「家計調査」）。

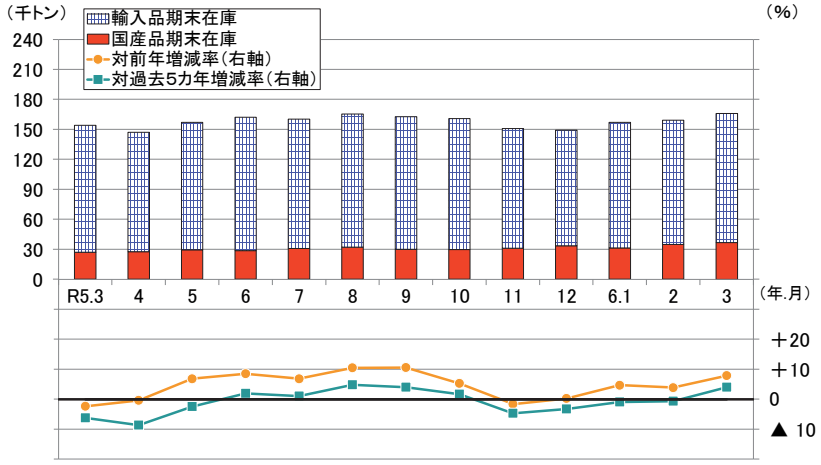
なお、過去５カ年の３月の平均消費量との比較でも、7.7％増とかなりの程度上回る結果となった。

推定期末在庫・推定出回り量

３月の推定期末在庫は、16万5978トン（前年同月比7.8％増）と前年同月をかなりの程度上回った（図３）。このうち、輸入品は12万9110トン（同1.8％増）と前年同月をわずかに上回った。

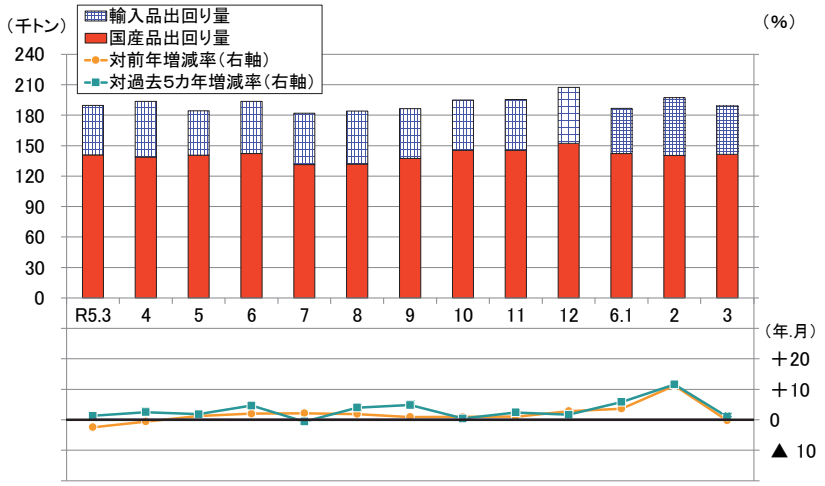
推定出回り量は、18万9156トン（同0.3％減）と前年同月並みとなった（図４）。このうち、国産品は14万1459トン（同0.4％増）と前年同月をわずかに上回った一方、輸入品は４万7697トン（同2.3％減）と前年同月をわずかに下回った。

図３　鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

図４　鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ

（畜産振興部　大西　未来）

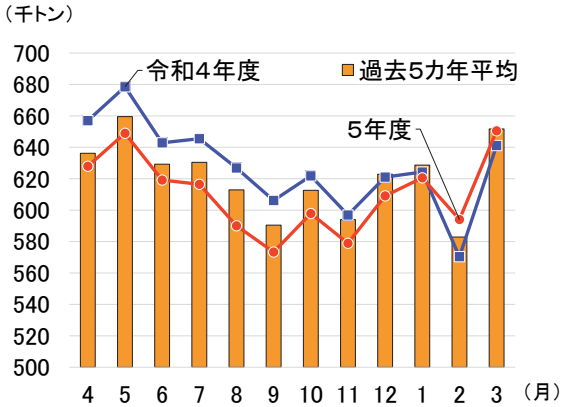
牛乳・乳製品

６年３月の北海道の生乳生産量、前年同月比3.5%増

全国の生乳生産量、２カ月連続で前年同月を上回る

令和６年３月の生乳生産量は、65万509トン（前年同月比1.5%増）と前年同月をわずかに上回り、２カ月連続で前年同月を上回った（図１）。地域別に見ると、北海道は36万7300トン（同3.5%増）と前年同月を３カ月連続で上回り、都府県は28万3200トン（同1.0%減）と前年同月をわずかに下回った。

図１　生乳生産量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

３月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは、30万7624トン（同2.9%減）と前年同月をわずかに下回った。このうち、業務用向けについては、２万5368トン（同6.3%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

乳製品向けは、33万8964トン（同5.8%増）と前年同月をやや上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは、６万1551トン（同1.7%減）と前年同月をわずかに下回り、チーズ向けは、４万784トン（同1.4%増）と前年同月をわずかに上回った。脱脂粉乳・バター等向けは、18万7152トン（同9.7%増）と前年同月をかなりの程度上回った（農畜産業振興機構「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

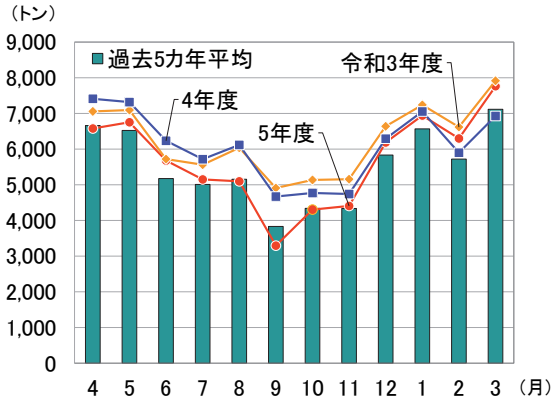
３月の牛乳等の生産量を見ると、飲用牛乳等のうち、牛乳は24万4800キロリットル（同2.8%減）と前年同月をわずかに下回った。成分調整牛乳は１万8100キロリットル（同10.0%減）と前年同月をかなりの程度下回り、加工乳は、１万3100キロリットル（同9.2%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

乳製品のうち、クリームは１万493トン（同0.1%増）と前年同月並みであった。

３月のバター生産量、前年同月比12.0%増

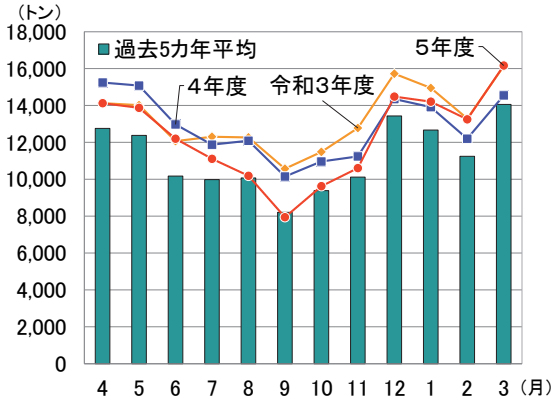
３月のバターの生産量は、7763トン（前年同月比12.0%増）と前年同月をかなり大きく上回った（図２）。出回り量は7375トン（同23.5%減）と前年同月をかなりの程度下回った（農畜産業振興機構調べ）。３月末の在庫量は、２万4425トン（同15.3%減）と前年同月をかなり大きく下回ったが、３カ月連続で前月を上回った（図３）。

図２　バターの生産量の推移



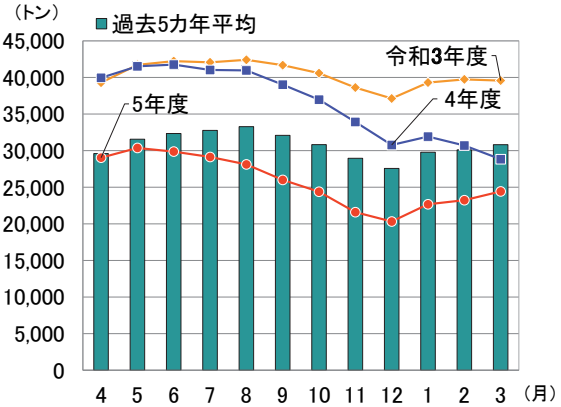
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図４　脱脂粉乳の生産量の推移



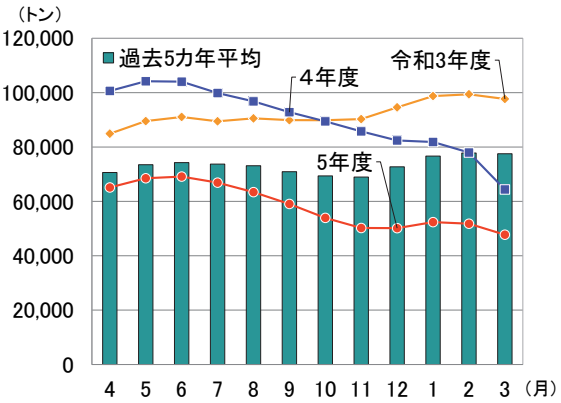
資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図３　バターの在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図５　脱脂粉乳の在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

３月末の脱脂粉乳在庫量、前年同月比26.0％減

３月の脱脂粉乳の生産量は、１万6165トン（前年同月比11.1％増）と前年同月をかなり大きく上回った（図４）。出回り量は２万271トン（同27.7％減）と前年同月をかなり大きく下回った（農畜産業振興機構調べ）。３月末の在庫量は、４万7749トン（同26.0％減）と前年同月を大幅に下回った（図５）。

令和５年度の生乳生産量、昨年度に引き続き減産

令和５年度の生乳生産量は732万7996トン（前年度比2.7％減）と前年度をわずかに下回り、２年連続の減産となった。地域別に見ると、北海道は417万8866トン（同1.8％減）、都府県は314万9130トン（同4.0％減）とともに２年連続で前年度を下回った（図６）。

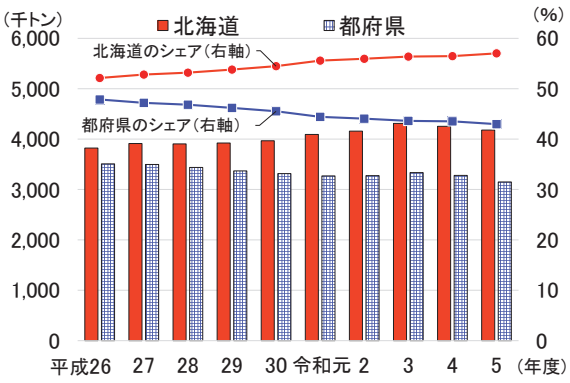
なお、全国の生乳生産量に占める北海道のシェアは57.0％、都府県は43.0％となり、シェアの差は拡大基調で推移している。

５年度の生乳処理量のうち牛乳等向けは、384万424トン（同2.6％減）と前年度をわ

ずかに下回ったが、これは乳価改定に伴う製品価格の値上げ等が要因と考えられる。

牛乳等の生産量については、飲用牛乳等のうち、牛乳は308万3200キロリットル（同2.1％減）と前年度をわずかに下回った。成分調整牛乳は23万2800キロリットル（同7.0％減）と前年度をかなりの程度下回り、加工乳は、14万5900キロリットル（同8.2％増）と前年度をかなりの程度上回った。これは、牛乳及び成分調整牛乳から比較的安価な加工乳へ需要がシフトしたことなどが影響していると考えられる。

図６　地域別生乳生産量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

（酪農乳業部　髙橋　沙織）

鶏　卵

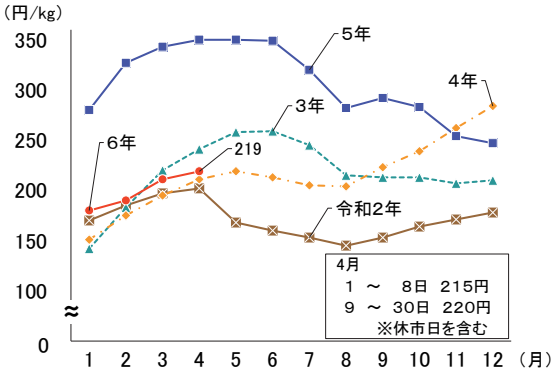
６年４月の鶏卵卸売価格、前年同月比37.4％安

令和６年４月の鶏卵卸売価格（東京、M玉基準値）は、１キログラム当たり219円（前年同月差131円安、前年同月比37.4％安）と高値で推移した前年同月を大幅に下回ったものの、３カ月連続で上昇し、２カ月連続で200円台となった（図１）。

なお、日ごとの推移を見ると、同価格は、月初の同215円から４月９日に同220円に上昇し、月間の上昇幅は５円となった。

供給面については、令和４年シーズンの高病原性鳥インフルエンザ（以下「HPAI」という）発生農場において、採卵鶏の再導入が進んでいることなどから回復傾向がみられている。一方、需要面については、量販向けでは堅調な荷動きがみられる他、一部のファストフードでもプロモーションによるスポット的な引き合いがあったものの、加工・業務向けでは、令和４年シーズンのHPAI発生による鶏卵不足の影響が続いており、需要の回復が遅れている状況にある。

図１　鶏卵卸売価格（東京、M玉）の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」
注：消費税を含まない。

（畜産振興部　大西　未来）

令和５年度の食肉の需給動向について

令和５年度（令和５年４月～令和６年３月）の食肉の畜種別の需給動向は以下の通り。

【牛肉】
生産量は、前年度をわずかに上回る

５年度の牛肉生産量は、35万1496トン（前年度比1.1％増）と前年度をわずかに上回った（表１）。品種別では、乳用種は８万1366トン（同4.5％減）と前年度をやや下回った一方、和牛は17万995トン（同3.6％増）、交雑種は９万5296トン（同3.3％増）と、ともに前年度をやや上回った。

和牛は繁殖雌牛の増加に伴い増加し、交雑種も乳用雌牛への黒毛和種精液の活用により増加した一方で、乳用種はこの影響などにより減少した。

輸入量は、前年度をかなりの程度下回る

５年度の牛肉輸入量は、50万1898トン（前年度比10.8％減）と４年連続で減少した。

主にテーブルミートとして消費される冷蔵品は、国内需要が低迷する中、米国産輸入量の大幅な減少などから、19万9476トン（同7.0％減）と前年度をかなりの程度下回った。輸入先別に見ると、豪州産は、９万2972トン（同19.8％増）と前年度を大幅に上回った一方、米国産は、９万1077トン（同19.3％減）と前年度を大幅に下回った。その結果、シェアは、豪州が全体の47％、米国が同46％を占め、平成28年度以来７年ぶりに順位が入れ替わった。米国産の現地相場の高騰によって、切り替えが進んだものとみられる。

一方、主に加工・業務用に仕向けられる冷凍品は、国内需要が低迷する中、主要国を含む多くの輸入先からの輸入量が少なく、30万1988トン（同13.1％減）と前年度をかなり大きく下回った。輸入先別に見ると、豪州産は12万7846トン（同1.8％減）とわずかに、米国産は10万725トン（同16.2％減）と大幅に、いずれも前年度を下回った。その結果、シェアは、豪州が全体の42％、米国が同33％を占めている。

推定出回り量は、前年度をわずかに下回る

５年度の牛肉の推定出回り量は、物価の上昇による消費者の生活防衛意識の高まりもあり、87万130トン（前年度比1.2％減）となり、４年連続で減少した。このうち、輸入品は、52万7797トン（同2.3％減）と前年度をわずかに下回った。一方、国産品は、34万2333トン（同0.6％増）と前年度をわずかに上回った。

年度末（６年３月）の推定期末在庫は、12万4337トン（同17.0％減）と前年度末を大幅に下回った。このうち、約９割を占める輸入品在庫は11万1229トン（同18.9％減）と前年度末を大幅に下回った一方、国産品在庫は１万3108トン（同4.1％増）と前年度末をやや上回った。

表１　牛肉需給表

年度	生産量								輸入量					
			うち和牛		うち交雑種		うち乳用種				うち冷蔵品		うち冷凍品	
	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）
R1	329,595	▲ 1.0%	151,935	1.8%	84,176	▲ 5.1%	88,976	▲ 2.1%	622,366	0.4%	278,119	▲ 0.2%	343,623	0.9%
2	335,496	1.8%	160,591	5.7%	82,124	▲ 2.4%	87,520	▲ 1.6%	590,992	▲ 5.0%	258,136	▲ 7.2%	332,598	▲ 3.2%
3	335,942	0.1%	160,518	▲ 0.0%	83,616	1.8%	86,380	▲ 1.3%	569,107	▲ 3.7%	251,889	▲ 2.4%	316,918	▲ 4.7%
4	347,600	3.5%	164,984	2.8%	92,221	10.3%	85,156	▲ 1.4%	562,505	▲ 1.2%	214,535	▲ 14.8%	347,635	9.7%
5	351,496	1.1%	170,995	3.6%	95,296	3.3%	81,366	▲ 4.5%	501,898	▲ 10.8%	199,476	▲ 7.0%	301,988	▲ 13.1%

年度	推定期末在庫						推定出回り量					
			うち輸入品		うち国産品				うち輸入品		うち国産品	
	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）
R1	126,843	9.4%	116,128	8.3%	10,715	22.7%	936,919	0.7%	613,444	2.1%	323,475	▲ 1.9%
2	117,475	▲ 7.4%	104,931	▲ 9.6%	12,544	17.1%	930,290	▲ 0.7%	602,189	▲ 1.8%	328,101	1.4%
3	127,825	8.8%	114,655	9.3%	13,170	5.0%	886,809	▲ 4.7%	559,383	▲ 7.1%	327,427	▲ 0.2%
4	149,724	17.1%	137,128	19.6%	12,596	▲ 4.4%	880,428	▲ 0.7%	540,032	▲ 3.5%	340,396	4.0%
5	124,337	▲ 17.0%	111,229	▲ 18.9%	13,108	4.1%	870,130	▲ 1.2%	527,797	▲ 2.3%	342,333	0.6%

資料：農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」、在庫量は農畜産業振興機構調べ
注１：部分肉ベース。
注２：輸入量のうち、冷蔵品および冷凍品はくず肉を含まない。

【豚肉】
生産量は、前年度をわずかに上回る

５年度の豚肉生産量は、枝肉重量の増加（前年度比1.3%増）などにより、90万8777トン（同0.9%増）と前年度をわずかに上回った（表２）。

輸入量は、前年度をやや下回る

５年度の豚肉輸入量は、91万4511トン（前年度比5.2%減）と、過去最大の輸入量となった前年度から減少に転じた。

主にテーブルミートとして消費される冷蔵品は、39万2732トン（同0.2%増）と前年度並みとなった。輸入先別に見ると、カナダ産は18万1233トン（同4.3%増）と前年度をやや上回った一方、米国産は16万9811トン（同8.9%減）と前年度をかなりの程度下回った。その結果、シェアは、カナダが全体の46%、米国が同43%を占め、順位が入れ替わった。

一方、主に加工・業務用に仕向けられる冷凍品は、現地相場高や為替の影響で欧州産を中心に輸入量が減少したことなどから、52万1652トン（同9.0%減）と前年度をかなりの程度下回った。輸入先別に見ると、スペイン産は16万4040トン（同13.4%減）、メキシコ産は８万2405トン（同12.8%減）とともにかなり大きく、デンマーク産は５万5575トン（同34.3%減）と大幅に、いずれも前年度を下回った。その結果、シェアは、スペインが全体の31%、メキシコが同16%、デンマークが同11%を占めている。

推定出回り量は、前年度をわずかに上回る

５年度の豚肉の推定出回り量は、物価の上昇による牛肉からの需要のシフトなどから、

184万2283トン（前年度比0.4％増）と前年度をわずかに上回った。このうち輸入品は、93万7964トン（同0.7％増）と前年度をわずかに上回った一方、国産品は90万4319トン（同0.1％増）と前年度並みとなった。

年度末（６年３月）の推定期末在庫は、18万9236トン（同9.8％減）と前年度末をかなりの程度下回った。このうち、約９割を占める輸入品在庫は16万6119トン（同12.4％減）と前年度末をかなり大きく下回った一方、国産品在庫は２万3117トン（同14.3％増）と前年度末をかなり大きく上回った。

表２　豚肉需給表

年度	生産量		輸入量					
					うち冷蔵品		うち冷凍品	
	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）
R1	902,827	0.6%	953,112	4.0%	415,663	2.5%	537,419	5.2%
2	916,787	1.5%	883,985	▲ 7.3%	418,240	0.6%	465,703	▲ 13.3%
3	922,691	0.6%	928,994	5.1%	426,836	2.1%	502,142	7.8%
4	901,112	▲ 2.3%	965,144	3.9%	391,789	▲ 8.2%	573,308	14.2%
5	908,777	0.9%	914,511	▲ 5.2%	392,732	0.2%	521,652	▲ 9.0%

年度	推定期末在庫						推定出回り量					
			うち輸入品		うち国産品				うち輸入品		うち国産品	
	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）
R1	210,137	26.2%	185,075	27.4%	25,062	18.1%	1,811,458	▲ 0.9%	913,305	▲ 1.9%	898,153	0.2%
2	181,984	▲ 13.4%	157,880	▲ 14.7%	24,104	▲ 3.8%	1,827,467	0.9%	911,180	▲ 0.2%	916,287	2.0%
3	180,095	▲ 1.0%	156,094	▲ 1.1%	24,001	▲ 0.4%	1,852,032	1.3%	930,780	2.2%	921,252	0.5%
4	209,804	16.5%	189,572	21.4%	20,232	▲ 15.7%	1,835,106	▲ 0.9%	931,666	0.1%	903,439	▲ 1.9%
5	189,236	▲ 9.8%	166,119	▲ 12.4%	23,117	14.3%	1,842,283	0.4%	937,964	0.7%	904,319	0.1%

資料：農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」、在庫量は農畜産業振興機構調べ
注１：部分肉ベース。
注２：輸入量のうち、冷蔵品および冷凍品はくず肉を含まない。

【鶏肉】
生産量は、前年度をわずかに上回る

５年度の鶏肉生産量は、消費者の健康志向の高まりや国産志向による堅調な需要を背景に、169万9078トン（前年度比1.3％増）と、12年ぶりの減少となった前年度をわずかに上回った（表３）。

輸入量は、前年度をかなりの程度上回る

５年度の鶏肉輸入量は、60万8569トン（前年度比7.7％増）と前年度をかなりの程度上回った。

輸入先別に見ると、ブラジル産は、一時期、同国において発生した高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響による減少はあったものの、リスクを見込んだ前倒しでの輸入などにより、42万2517トン（同2.6％増）

と前年度をわずかに上回った。タイ産についても、ブラジル産の代替輸入により、17万3026トン（同23.2%増）と前年度を大幅に上回った。その結果、シェアは、ブラジルが全体の69%、タイが同28%を占めている。

推定出回り量は、前年度をわずかに上回る

５年度の鶏肉の推定出回り量は、堅調な需要から生産量と輸入量が増加したことにより、229万5571トン（前年度比2.2%増）と前年度をわずかに上回った。このうち、主に加工用、外食・中食用に大部分が仕向けられる輸入品は60万6312トン（同7.6%増）とかなりの程度、家計消費用に仕向けられる国産品は168万9259トン（同0.4%増）とわずかに、いずれも前年度を上回った。

年度末（６年３月）の推定期末在庫は、16万5978トン（同7.8%増）と前年度末をかなりの程度上回った。このうち、約８割を占める輸入品在庫は12万9110トン（同1.8%増）とわずかに、国産品在庫は３万6868トン（同36.3%増）と大幅に、いずれも前年度末を上回った。

表３　鶏肉需給表

年度	生産量		輸入量		推定期末在庫						推定出回り量					
							うち輸入品		うち国産品				うち輸入品		うち国産品	
	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）	トン	前年度比（増減率）
R1	1,646,577	2.9%	572,118	5.0%	170,447	11.9%	139,326	11.7%	31,121	12.5%	2,200,577	1.5%	557,469	▲ 1.9%	1,643,108	2.7%
2	1,649,744	0.2%	552,832	▲ 3.4%	163,802	▲ 3.9%	135,022	▲ 3.1%	28,780	▲ 7.5%	2,209,221	0.4%	557,136	▲ 0.1%	1,652,085	0.5%
3	1,689,107	2.4%	594,223	7.5%	157,653	▲ 3.8%	125,160	▲ 7.3%	32,493	12.9%	2,289,479	3.6%	604,085	8.4%	1,685,394	2.0%
4	1,677,673	▲ 0.7%	565,043	▲ 4.9%	153,902	▲ 2.4%	126,853	1.4%	27,049	▲ 16.8%	2,246,467	▲ 1.9%	563,350	▲ 6.7%	1,683,117	▲ 0.1%
5	1,699,078	1.3%	608,569	7.7%	165,978	7.8%	129,110	1.8%	36,868	36.3%	2,295,571	2.2%	606,312	7.6%	1,689,259	0.4%

資料：財務省「貿易統計」、農畜産業振興機構調べ
注１：生産量は骨付き肉ベース。
注２：成鶏肉含む。
注３：輸入量には鶏肉以外の家きん肉を含まない。

（畜産振興部　丸吉　裕子）